

2023 年度 事業報告書

自 2023（令和5）年3月1日
至 2024（令和6）年2月29日

一般財団法人 お寺と教会の親なきあと相談室

I. 理念

「親なきあと」は、障がいのある子やひきこもりの子が親に面倒を見てもらえなくなったあと、どうやって生きていくか、という問題です。私たち一般財団法人お寺と教会の親なきあと相談室は、僧侶や牧師などの宗教者が、お寺や教会などの宗教施設で本人や家族に寄り添い、伴走型支援を行うことを目的に、2021年10月に設立されました。

私たちは、宗教者が「親なきあと」に対処する優位性について、

- ① 看取りと弔いに対応できること
- ② 傾聴による心のケアが得意なこと
- ③ 公的制度の枠外で動けること

にあると考えており、宗教施設で行うことのメリットを、

- ④ 落ち着いた空間であること
- ⑤ 長期間にわたって存続すること
- ⑥ 全国各地にコンビニより数多くあること（スケールメリット）

だと捉えています。

コロナ禍以来、孤立を深める本人・家族が増えているとの声が支援者から相次いで聞かれます。また、いわゆる8050問題やヤングケアラーなどは、行政だけでは対処しきれないほど広がりを見せており、その根本には「親なきあと」の問題があると考えられます。

2023年度においては、これらを前提に、各種事業を行いました。

II. 支部開設状況

一般財団法人お寺と教会の親なきあと相談室では、僧侶や牧師などの宗教者が、それぞれの寺院及び教会をはじめとする宗教施設に相談室の支部を開設することを通じて、活動を行っています。

支部の数は、2023年度末時点で16施設となり、22年度（12施設）から4施設増えました。増えた4施設の内訳は、上行寺船橋別院支部（千葉県船橋市）、銀山寺支部（大阪市天王寺区）、栗田口良恩寺支部（京都市東山区）、大慈学苑支部（東京都江戸川区）です。

Ⅲ. 事業報告

1. カフェに関する事業

- ・「親あるあいだの語りカフェ」の開催

各相談室支部では、当事者や家族、支援者らが「親なきあと」について語り合う「親あるあいだの語りカフェ」を開いています。お寺や教会の落ち着いた空間で、参加者同士が悩みを語り合い、つもる話を聴き合い、共感し合うことで、少しでも日常の不安を和らげて心の“重荷、を下ろしてもらおうという取り組みです。

各テーブルに分かれて雑談する場合もあれば、全員が輪になって一つのテーマについて語り合うこともあります。支部によっては、講演会・学習会やイベントと合わせて開いています。相手の話を否定しない、語られた内容は口外しない—などの原則さえ守られれば、開催方法や頻度は各支部に委ねています。

2023年度は全国で69回行われ、22年度（14回）から大きく開催回数が増えました。月別の開催回数と参加者数は、以下の通りです。

| 令和5年度相談室開催状況 | | |
|--------------|-----|------|
| | 開催数 | 参加者数 |
| 3月 | 4 | 62 |
| 4月 | 6 | 104 |
| 5月 | 7 | 99 |
| 6月 | 7 | 108 |
| 7月 | 4 | 39 |
| 8月 | 2 | 16 |
| 9月 | 7 | 89 |
| 10月 | 9 | 124 |
| 11月 | 5 | 45 |
| 12月 | 7 | 110 |
| 1月 | 5 | 55 |
| 2月 | 6 | 90 |
| | 69回 | 941人 |

2. 傾聴に関する事業

- ・傾聴ボランティアの育成ならびに傾聴力の研鑽

傾聴ボランティアの育成ならびに傾聴力の研鑽については、資金の関係で各相談室支部への指導を十分に行うことができませんでした。各支部は「親あるあいだの語らいカフェ」の開催を通じ、傾聴のできる協力者を発掘し、実践に基づく傾聴力の向上に努めました。

3. 啓発に関する事業

- ・8050 問題とヤングケアラーに関する講演会の開催

相談室支部によっては「親あるあいだの語らいカフェ」に合わせ、8050 問題やヤングケアラーをテーマにした講演会を開催しました。親なきあとをより身近な問題として捉えてもらうとともに、個別の相談支援や多職種連携につなげることを目的としました。

2023 年度は、以下の通り講演会を開催しました。

| | | | |
|-----------|---------------|--------------------------|----------|
| 4 月 9 日 | 岡崎市 本光寺支部 | 講師：藤井奈緒理事 | 参加者：40 人 |
| 4 月 15 日 | 源光寺支部 | 講師：藤井奈緒理事 | 参加者：22 人 |
| 5 月 13 日 | 津市妙華寺支部 | 講師：藤井奈緒理事、鈴木伸之さん | 参加者：25 人 |
| 6 月 11 日 | 佛乘院支部 | 講師：藤井奈緒理事 | 参加者：20 人 |
| 10 月 8 日 | 横浜香仙院支部 | 講師：藤井奈緒理事 | 参加者：33 人 |
| 10 月 28 日 | 佐野市一向寺支部 | 講師：藤井奈緒理事 | 参加者：21 人 |
| 12 月 14 日 | 上行寺船橋別院支部 | 講師：友野剛行さん | 参加者：15 人 |
| 12 月 19 日 | 大阪市あかんのん安住荘支部 | 講師：渡邊充佳さん | 参加者：18 人 |
| 1 月 14 日 | 横浜香仙院支部 | 講師：畑智晃支部長 | 参加者：14 人 |
| 2 月 7 日 | 妙行寺鹿児島市支部 | 講師：藤井奈緒理事、西野翔太さん、小野木康雄代表 | 参加者：30 人 |

以上 計 10 回 参加者計 238 人

講演会参加者との対話や相談から分かってきたのは、ひきこもりになる要因はさまざまということでした。8050問題は、ひきこもりの長期高年齢化による社会的孤立と位置付けられていますが、心がしんどい（精神障がい）▽生きづらさを抱えている（発達障がい）▽預かってくれる所がない（重度の知的障がい、身体障がい）一など、障がいや病気が影響しているケースが多くみられました。

置かれた状況は異なっても、当事者家族や本人が抱える不安は「親なきあと」に関連することであるという点で共通しています。前述した「親あるあいだの語らいカフェ」を開催して、当事者家族・本人に分かち合う場を提供し、宗教者が多職種と協力しながら伴走する体制を整えることが必要だと考えます。

・宗教者と宗教施設向けの広報

相談室支部を開く宗教施設が増えるよう、既存の支部を通じた働きかけや、宗教専門紙「文化時報」を通じた広報、同紙を発行する文化時報社が主宰する「福祉仏教入門講座」への開催協力などを行いました。

・当事者・家族や一般向けの広報

一般の方々に親なきあとや8050問題、ヤングケアラーのことを知ってもらえるよう、また当事者・家族や支援者、宗教者にお寺と教会の親なきあと相談室の活動を理解してもらえるよう、活動内容を随時、ウェブで紹介してきました。

ホームページ <https://otera-oyanaki.com/>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/oteraoyanaki/>

ホームページでは、行事の告知・報告・新聞掲載などに関する情報を随時、更新してきました。

また、新たに「親あるあいだの語らいカフェ」を中心としたイベントカレンダーを掲載。YouTube 動画「【3分で紹介！】一般財団法人お寺と教会の親なきあと相談室」を制作し、埋め込みました。

Facebook ページでは、ホームページの「新着情報」に連動させた記事を掲載しました。

以上